

学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 令和2年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和2年10月23日(金) 14:00~16:30
- 3 開催場所 岐阜県立吉城高等学校 会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|---------------------|
| 会長 | 柴田 駿一 | 吉城高校同窓会長 |
| 副会長 | 沖畑 康子 | 飛騨市教育長 |
| 委員 | 都竹 淳也 | 飛騨市長 |
| | 川上 佳洋 | 宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長 |
| | 渡邊 正憲 | (株)飛騨ダイキャスト代表取締役 |
| | 石原 典子 | 元民生委員(主婦) |
| | 北村 淳子 | (有)まるじん役員 |
| | 廣田 真也 | 飛騨古川青年会議所理事長 |
| | 藤白 規良 | 吉城高校育友会長 |
| | 老田 知美 | 吉城高校育友会女性部長 |
- 学校側
- | | |
|--------|----------|
| 日江井 孝浩 | 校長 |
| 中田 和美 | 教頭 |
| 大乘坊 健 | 事務長 |
| 小原 誠 | 教務主任 |
| 河野 和代 | 生徒指導主事 |
| 小澤 耕 | 進路指導主事 |
| 桐谷 直嗣 | 特別活動部長 |
| 八賀 武子 | キャリア推進部長 |
| 寺門 隆治 | 理数科主任 |
- コーディネーター 関口 祐太 キャリア教育委託業者(株)Edo 代表取締役

5 会議の概要(協議事項)

(1) 会長挨拶

令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力型)」の事業特例校及びユネスコスクール認定校である本校が、ますます成果を挙げるために、委員の皆様のご協力をお願いしたい。

(2) 出席者自己紹介

(3) 本校の取組の概要説明(学校長)

①本校の現状

- ・コロナウイルス対策としての休業期間中にオンライン授業を実施した。
- ・1人1台タブレットの導入を予定している。
- ・学校行事でもWeb会議システムの活用している。
- ・学習環境の改善のため、特別教室へのエアコン整備を計画している。
- ・コロナウイルス感染防止のための健康チェックや校内消毒を徹底している。
- ・2年生修学旅行の計画を変更した。

②働き方改革

- ・業務支援員（2名）や学習指導員（2名）を採用

③部活動改革

- ・部活動数の縮小について検討中

④その他

- ・コロナ禍でYCKプロジェクトの実施が困難である。
- ・現2年生が来年、進路先に提出する志望理由書や面接・プレゼン等の材料不足を心配している。
- ・生徒会や家庭クラブなどは、できる範囲での校外活動を実施している。

(4) 授業見学、校内巡回（14：35～15：10）

(5) アンケート（生徒・保護者）結果分析（教頭）

- ・コロナ禍の中でもできることを考え、取り組んできたことが評価された。
- ・結果の経年変化では、徐々に高評価となっている。
- ・本校に入学できてよかったと思っている生徒が90%以上、子どもが喜んで学校に通っていると感じている保護者が90%以上、という結果を大変嬉しく思う。
- ・地域と連携したYCKプロジェクトの取組が浸透してきており、中学生からもYCKをやりたいという声を聞くことが多くなってきた。

(6) 各分掌の取組報告

① 教務部より

- ・Web会議の活用など、コロナ禍でも、工夫して様々な活動ができた。
- ・休業期間中に学習支援ソフト「ロイロノート」を導入し、学習支援を行った。
- ・1人1台タブレット端末と併せて、授業支援ソフト「Meta Moji Class Room」が導入されるため、現在、職員の研修を行っている。
- ・生徒募集のために広報に力を入れており、新入生アンケートや1日入学の生徒のアンケートも参考にしている。
- ・アンケートより、中学生が高校選びで「最も役立った」のは高校見学や1日入学であり、「最も相談した人」は保護者であった。そこで、今年の1日入学では、新たに保護者説明会を企画し、保護者への情報提供を強化した。

② 生徒指導部より

- ・年度当初の休業期間の影響により、心の問題で苦しむ生徒が例年よりも多い。
- ・カウンセリングを希望する者も多く、スクールカウンセラーに助けられている。
- ・いじめの件数が増えているが、些細なこともいじめと認知して対処できている。
- ・全体としては、ほとんどの生徒が元気に登校している。

③ 進路指導部より

- ・インターンシップなど計画通り実施できなかったものがあり、生徒の経験の機会が減ってしまったことは残念である。
- ・外部講師による小論文研修会は、Web会議室を活用し、1教室から他教室に配信するという方法で実施できた。
- ・進路の保護者説明会はオンラインで実施し、各家庭で視聴してもらった。就職の説明会は少人数のため、本校会議室で実施した。
- ・オンライン実施により、保護者のご都合に合わせて視聴していただき、説明後の個別質問にも対応できた。しかし、対面での相談機会の大切さについても考えさせられた。
- ・休業期間中の進学模試は郵送で実施した。家庭では、学校のように集中できる環境づくりはなかなか難しく、生徒には不便をかけた。
- ・(株) Edo や、キャリアコーディネーターの協力により、学習交流会「地域と考えるこれからの社会」を企画した。本来ならば様々な人と関わりながら、世の中や自身のことを考える大切な時期に、コロナ禍で語れる大人が保護者か教員しかいない状況となる中、

生徒が地域の方々と意見交換する機会が得られた。

④ 特別活動部より

- ・対面式や部紹介などの新入生イベントができなかったが、柏葉祭や球技大会は工夫して実施できた。
- ・例年通りと形骸化していた業務が多くあったが、コロナの影響で見直しを迫られたことにより、職員が改善や改革を考える機会をもてた。今後も、そういった時間や機会の確保が課題である。

⑤ キャリア推進部より

- ・コロナ禍により、YCKプロジェクトを実施できるか心配だった。
- ・例年通りの地域連携行事は、ほとんど断念せざるを得なかったが、5月に飛騨神岡高校と合同で、飛騨市長とのオンライン対談が実現した。その後、8月には三密を避ける対策を講じて、市長より対面での講義をしていただき、直接話し合う機会をもつことができた。
- ・地域課題探究は工夫しながら、チームビルディング（仲間づくり）を行い、グループ単位で地域の方との対話を進めている。
- ・長年続いている和光園での交流活動は、ぞうきんの贈呈で代替し、新聞でも報道された。
- ・国際理解探究の台湾研修は断念したが、オンラインでの台湾生徒との対話等、飛騨市と計画中である。来年度に向けて、中国語講座の実施等、何ができるかを検討する。

⑥ 理数科より

- ・2年生のスーパーカミオカンデでの研修を、来年度に延期した。
- ・夏のサイエンス教室を、来年度は実施したい。
- ・理数科オリエンテーションは実施できた。
- ・課題研究を進めるのに苦労したが、何とかよい研究ができた。課題研究会はオンラインで実施した。
- ・1年生は例年通り、サイエンスワールドでのDNA鑑定の実験を実施する予定である
- ・南極観測隊で、越冬隊長を務めた気象庁の木津氏を講師に招き、出前講座を予定している。
- ・県下の理数科生徒が交流する「SSS」に、本校理数科生徒が2名参加した。
- ・今後もICTを活用して、研究や活動を進めていきたい

(7) 意見交換

意見1：休業期間で授業時間数が減ったが、単位修得に影響はないのか。学校経営における数値目標の見直しはあるのか。

- 休業期間中もオンライン授業や「ロイノート」での学習支援を行っており、学習内容の遅れはそれほどないと思われる。授業時数については、行事の精選、土曜日の活用、長期休暇の見直し等によりできる限り確保し、学習計画に基づいた各教科・科目の目標に照らして満足できると認められた場合は、単位を修得できるとされている。

意見2：学校のマニフェストも、コロナの影響があるのか。

- 実施できない項目については、目標値を変えざるを得ない。どのような代替策を講じたかということで評価をしていかなければならない。来年度に向けた見直しも進めていく。

意見3：小中学校においても、コロナ禍だからこそできたという、良い影響もあった。これまでの思い込みを捨てて、教育の目的や育てたい資質を一つ一つ見直すことで、教員が自分たちでできること、子どもたちにしてあげられることを考える機会となった。こういう思考ができたということは大きな成果である。子どもも一緒になって課題解決学習に全校で取り組んでいる。高校ではオンライン授業にも必死で取り組

まれたが、それは財産である。さらに主体的に取り組めるように改善策を考えることは、素晴らしいことだ。小中学校はオンライン授業ではまだまだ後れを取っているので、いろいろ教えていただきたい。また、ICTを使ってどんな力を伸ばすことに効果が表れたかを検証してほしい。小中学校の学校再開にあたって、焦らないようにと話をした。高校でも心のアンケートを毎月実施されており、確かに心の問題は多い。しかし、一方で不登校が減った中学校もある。普段よりも教員の生徒への接し方が緩やかになったのかもしれない。そのあたりの加減をコロナから学べると思う。進学、就職を控えて心配なこともあるが頑張してほしい。

意見4：総合コースは、それぞれがどのような内容なのか。

→ こちらのカリキュラムは来年度入学生用のものである。看護福祉コース、国際・観光コース、公務員・就職コース、芸術・体育コースがあり、生徒が主体的に授業を選択できるカリキュラムとなっている。自分の進路に応じて1年次にコース選択をする。例えば、看護福祉コースの「生活福祉」の授業では、施設実習や認知症等の専門家による講座などを予定していたが、コロナの影響により、施設実習は難しい。新しい教科であるので、コロナ禍が落ち着いてきたら、飛騨市の福祉関係各所と協力して、地域連携の在り方や、飛騨市内での外部講師依頼を検討していきたい。

意見5：科目選択に自由度があるのは、良いことであり、個々の科目の中身を充実させてほしい。

地域連携を吉城高校の目玉として、飛騨市も一緒に取り組もうという話だったが、活発な議論があまり行われていない。地域連携を強化すれば、相当いろいろなことができる。例えば、公務員コースの科目「政治・経済」は、他の地域と同じ内容を教えるのではなく、飛騨市ならではの特色が出せるのではないかと。1単位35時間の中で工夫すれば、様々な取組が可能であり、教育の中身についても市や他の団体との連携をぜひご検討してもらいたい。

→ 本校は文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の地域魅力型の事業特例校に指定されており、地域連携による探究型学習の研究を進めている。是非とも、地域の力を借りて、一緒に取り組んでいきたい。

意見6：「福祉や医療看護等はこちらがあると良い」という思いが自分にあるように、様々な立場の方の思いがそれぞれあるので、地域連携を進めてもらいたい。今年度はコロナ禍により、教員の課題解決能力が試される機会が多々あった。自分たちならどう行動するかを生徒に問いかけるなど、今ほど解決すべき課題に満ちあふれた状況はない。

意見7：高校卒業後に介護や看護、公務員の職に就き、退職する人が多い。それぞれの職業の実態が分からないまま、公務員という一括りで考えているのではないかと。総合の授業の中で、職業について具体的に調べたり、市の行政に携わりたいと考える生徒に具体的な対策を教えたりするなど、やれることを是非やってもらいたい。

「共育の森」という法人が7月に各都道府県の教員に対して行った時間外勤務に関するアンケートによると、58%が80時間超過勤務、そのうち48%は100時間越えとなっている。コロナ対策、生徒の心のケア、学習進度の挽回など、教員の負担が大きかったとのデータである。本校教員の状況について、教えてもらいたい。

→ 本県では45時間超過勤務となる教員を県に報告し、管理職と面談を行うことになっている。4、5月は部活等がなく、超過勤務は少なかったが、管理職等一部に超過勤務があった。学校再開以降も、昨年度と比べるとずいぶん超過勤務は少ないが、80時間超過が数名、45時間超過が10名程度いる。各教員が意識して午後7時には帰る、8のつく日は午後6時には帰るようにしている。数字上は改善しているが、持ち帰り仕事が増えたのではないかと考えている。外部人材を登用する予算がつき、学習指導員や業務支援員に印刷や消毒などをお願いしている。

意見8：スクールスタッフが見つからず、他県でも校長が知り合いに頼むなどした、と聞いたが、本校の状況はどうか。

→ ありがたいことに4名の方に来ていただいているが、県のHPから応募があったわけではなく、近隣の知っている方に声をかけてお願いしている状況である。本協議会委員は、教員の人事に関する権限もあるのでこの機にお伝えするが、英語と国語の教員が少ない。本校も3月の時点で講師が見つかっていなかったが、海外留学予定だった方に来てもらえた。特に飛騨地区は人材探しが大変である。本校教員に欠員が出た場合、もし可能な方をご存じであれば、是非ご紹介いただきたい。

意見9：将来的に教員の加配はないのか。特色ある授業の充実のために、教員が増えるとよい。

→ 今のところ、これ以上の加配はないと聞いている。生徒数により教員数が決められているので、今後、生徒数が減少すると、さらに教員が減ることになる。

意見10：特色あるコース設定の中で、就職採用に向けた授業の展開も検討してはどうか。先の見えない状況にも臨機応変に対応できるよう、関係機関に相談できるとよい。

心の問題については、企業でもどこまでやれるか、迷うところである。いろいろな困り感を抱える人が今後も増えると思われ、暗いニュースも多いので影響を受けやすい。個人面談を行うなど、本校教職員の心のケアをお願いしたい。

→ 本校教職員はストレスチェックや、メンタルケアの講習を受けたりしている。

意見11：3年生の教室にある「大学共通テストまであと何日」という掲示を見て、もうそんな季節になったのかと感じた。ホワイトボードとなり、デジタル教材があり、字も見やすくなり、これなら力がつくだろうと期待している。

意見12：YCKプロジェクトは魅力的だと思っているので、コロナ禍で多くの取組ができなくなり残念である。コロナ禍では特に、心のケアが大事だと感じている。スクールカウンセラーを活用して、生徒を大切にしてもらいたい。

黒板がホワイトボードとなったが、ただチョークの代わりにホワイトボードマーカーで書くものと思っていたので、目からうるこだった。プロジェクターで投影したものに書き込んでいくとは素晴らしい変化である。

意見13：私の所属している組織でも、コロナ禍で計画してできなかったものが半分以上あり、来年に引き継ぐべき内容を考えている。資料の中に、本校が来年度に引き継ぐべき内容が記載されているとよかった。

→ 校内反省職員会議に向けて、各教員が個人シートを記入している。それを基に各分掌が考え、11月の半ばに反省職員会議を行うことになっている。第3回学校運営協議会で、反省をまとめたものを会議資料とし、今年度の反省及び来年度への提言について、ご意見をいただく予定である。

意見14：授業中に換気がされていた教室と、そうでない教室があったがなぜか。

→ 本日、保健厚生部から冬場の換気についてのマニュアルが出された。本マニュアルは、学校医、学校薬剤師にも確認いただいている。寒くなり、風邪を引いてはいけなないので、授業中はある程度締め切って、休み時間に開放することとしている。明日以降、徹底されると思う。

意見15：ホワイトボードは、離れた場所からは文字は見にくい。特に古典など文字が見づらい。

意見16：各教室のドアに、目隠し用段ボールが貼られているのはどうしてか。

→ 体育館が工事中のため更衣室が使えず、女子生徒が教室で更衣している。ドアの透明なガラス部分を段ボールで覆っている。窮余の策である。11月に体育館が完成すれば、段ボールは撤去する。

意見17：3階の渡り廊下の軒天が剥がれるなど、危ない箇所があった。確認し、対応してほしい。できれば、蛍光灯もLED化してほしい。

→ 軒天については、県に報告し、来年度以降に改修してもらうことになっている。

意見18：ICT機器を使用する授業を見て感心した。視覚的に教材がパッと映し出され、生徒はスマホで意見を投稿する授業は、体験的な学習で頭に入りやすい。教員の負担軽減にもつながるとよいと思う。

今年の柏葉祭は各クラスで映像を作り、上映するという新しい形で実施された。育友

会では DVD にして希望する保護者に渡るようにした。生徒の編集能力が高く、シナリオや構成もクラスごとに違って面白かった。このようなデジタル技術を駆使した経験は今後につながると思う。今年度の経験を生かして、来年度も発展させてほしい。また、柏葉祭の実施有無について生徒の意見を尊重し、決めてもらえたことはありがたい。和光園へのマスクの贈呈など、なかなか活動ができない中で工夫して生徒にやらせていただき、そのように導いてもらえたことを感謝している。

→ バザーについて育友会の皆さんの協力を感謝している。調理したものを販売できない中、楽しみにしている生徒のために、工夫していただきありがたかった。当初予定していた8月時点では、文化祭は当面は見合わせるとの方針であったため、一般公開は無理だろうと思っていた。その後、日程を9月1日に変更し、9月からは工夫して実施してよいという指示があったので、特活部を中心に生徒と工夫して実施できた。この経験は来年度にも生かしたい。

意見19：「人が育つ地域をいかに作れるか」が自分のテーマであり、文部科学省も子どもたちの課題解決能力を育てることを求めており、行政なども関わってカリキュラム開発することに同意している。このような話になると、必ず教員の労働時間の話が出てくるが、いつまでも解決しない。教員の忙しさを実際に見てきたが、現場の教員にとつて、一体何が課題なのかを知りたい。

→ 教員の超過勤務は部活動の影響が大きい。授業のデジタル化による教材研究はあるが、それは教員としてやらなければならないことであるし、職場を離れても、自分の力をつける努力は必要だと感じている。一番の課題は部活動だと考えられるが、教員の中にも部活動の指導ができないと、教員の魅力が減ると感じている人もいる。部活動を見直しながら、少しでも超過勤務を減らしたい。飛騨地区は特に、会場との行き来にも時間がかかるため、他地区よりも勤務時間が増えてしまう。校内のことについては、業務支援員を増やすことで、対応できないかと考えている。また、デジタル化が進み、教材の共有化ができると、今までよりは授業準備の時間削減ができるのではないかと考えている。

(8) 副会長挨拶

飛騨市学園構想で一緒に取り組む中で、協働活動が動き出し、整い始めている。飛騨市立の小中学校だけでなく、保育園や高校などに対しても地域が関わりやすくなると思うので、活用してほしい。

6 会議のまとめ

長時間にわたり、本校の学校運営について、委員の皆様のお立場から様々なご意見やご提言をいただくことができた。第3回学校運営協議会は、YCKプロジェクト報告会と併せて開催を予定している。生徒の報告をご覧いただいた後に、活発な意見交換をお願いしたい。